収穫感謝･謝恩日礼拝
２０２３年11月２６日（日）
題　「分かち合う大切さ」
テキスト：ルカによる福音書１２章１３～２１節

皆さま、おはようございます。
今日は､収穫感謝･謝恩日の礼拝をこのように捧げることができますことを感謝いたします。毎年お伝えしていることですが、収穫感謝は、秋の収穫を神さまに感謝する時です。その起源として伝えられているのはイギリスから現在のアメリカ合衆国のマサチューセッツ州のプリマスに 1600 年代の始めに宗教的自由を求めて移住して来たピルグリムと呼ばれる入植者の一団が、本国イギリスから持ってきた種子などで農耕を始めたところ、現地の土壌に合わず飢饉による餓死者まで出したところ､アメリカ先住民の助けにより危機を脱したので、神に感謝し､その感謝を表す目的で 1621 年に先住民を招いて収穫を祝う宴会を開いたことにあると言われています。
また謝恩日とは、日本キリスト教団で儲けられた日で、牧師として務められ、隠退された牧師を覚えて守られています。具体的には、隠退された牧師の老後を支える献金を捧げています。ちなみにドイツでは牧師は、公務員扱いの給与を得ているようですが、日本基督教団では、遣わされた教会の規模によって違います。遣わされた教会との契約に基づいています。引退牧師を支える年金制度は信徒の発案で始められたと聞いています。各個教会と牧師個人が毎月教団事務所に収めているのです。
さて、世界では現在でも飢餓で苦しむ多くの方々がおられます。現在イスラエルに攻撃されているガザ地区の人々の命が脅かされています。一日も早く停戦になることを願い祈っています。洲本教会では以前から「いもがゆ」を頂き、ミニバザーを行い国際飢餓対策機構に捧げて来ました。
世界中の人々が、食べものを始め、様々な良きものを与えて下さる神さまに感謝すると共に、与えられた物を分かち合う心を与えられ、分かち合って行きたいものだとこの時、願い祈ります。神さまは、本来わたしたち人間に、分かち合う心を与えてくださっているのだと信じます。

今日は来週から迎えるアドベント（待降節）を前にして、今日の聖書の言葉に聞きたいと願います。
さて、収穫感謝の時になると、昔聞いたこども向けの「天国と地獄」という話しを思い出します。ご存じの方もおられると思います。話しの内容は語りつが

れる間に多少変化しているようですが、最近出会った話しでは次のような話しです。
天国にも地獄にも食べ物は同じ分量、たくさんの食べ物があります。天国でも地獄でも、みんな ま～あるい テーブルを囲んで座り食事を始めるのですが、その時両者とも１メートル以上もある長い長い箸を使って食べなければならないのでした。天国でも地獄でもその条件は全く同じなのでした。
　ところがいざ食事を始めるとなると、天国と地獄ではその箸の使い方に大きな違いがありました。
　地獄にいる人はそのなが～い箸を使って一生懸命食べようとするのですが、箸があまりにも長すぎるために、なかなか思うように食べ物を自分の口まで運ぶことができません。益々躍起になって自分で自分の口まで食べ物を運ぼうとするのですが、躍起になればなるほどうまくいかず、食べ物はポロポロポロポロと下に落ちるばかりでした。ですから地獄にいる人達はいつまで経ってもおなか一杯になることはできず、いつも空腹の状態に苦しまなければなりませんでした。
　一方、天国にいる人達はいつもおなか一杯の満足感を味わい、幸せを感じながら過ごしていました。天国にいる人達は、そのなが～い箸を決して自分のためには使わなかったのです。そのなが～い箸で食べ物をつまむと、その箸を自分の正面に座っている相手に向かって差しだし、「あなたからどうぞ」と言って相手の口元まで自分の箸を運ぶのでした。テーブルを囲むお互いがみんな同じように、「あなたからどうぞ」という箸の使い方をしています。相手のために働かせる箸をみんなが持っているのでした。決して自分のために使う箸ではなかったのです。相手のために自分を働かせることによって、相手もまた自分のために働いてくれる。天国ではそういうことが自然に行われているのでした。ですから天国にいる人達はいつもおなか一杯で、幸せいっぱいなのでした。
という話しです。箸の使い方にも人間の心が出てくるのかと思わされました。

さて、今日の聖書の個所の話しは、
ある時、イエスの周りに多くの群衆が集まって来た時語られた話しです。
◆「愚かな金持ち」のたとえ
13:群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるよう
　　に兄弟に言ってください。」と。古代イスラエルでは親の遺産はすべてその家の長男がうけついでいたようです。このイエスの譬えは、親の遺産をめぐる兄弟間の争いかと思います。宗教改革者のルターは親が事前に問題が起こらないように決めておくことを勧めています。

14:イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判
官や調停人に任命したのか。」と。
15:そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しな
さい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどう
することもできないからである。」

「貪欲」という言葉が出ています。貪欲とはどのようなことでしょうか？　辞書の広辞苑によれば、貪欲とは「自己の欲するものに執着して飽くことを知らないこと。」「非常に欲の深いこと。」とあります。イエスも、この貪欲に気をつけること、用心することを弟子たちをはじめとして民衆に教えられたのだと思います。

16:それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だ
った。
17:金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い
巡らしたが、
18:やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、
そこに穀物や財産をみなしまい、
19:こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行く
だけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽し
め」と。』

これが貪欲な人の姿だと思います。倉を建てても良いのだと思います。しかし、足ることをしらないのです。いや悲しいことに忘れてしまっているのです。
畑の豊作に対して、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と悩むのです。感謝ということばは忘れさられているように思えます。
そして、『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、19:こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』　どうでしょうか？この人は、働き者ではあったかも知れませんが、自分の安心だけに心が向いてしまっているかのようです。旧約聖書には、自分に神さまから与えられたものの十分の一を神に捧げるという習慣があったことが記されています。これは単に習慣というだけではなく、自分のものも、神から与えられたものなのだとの思いを大切にすることで共に生きるということを実現していったのだと思わされます。
イエスも、神も人間の心にあるこの貪欲を嫌われます。それはその人自身の品性をも落としかねないのです。

20:しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。
　　お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。
21:自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」と。

　ここに集まったわたしたち、神さまに愛され、救い主イエスを知らされ、慰め主である聖霊を受けた者たちとして、それぞれの人生の歩みの中で感謝を忘れず、貧しさに苦労している人たち、身体や心の弱っている人たちを思いやることのできる「練られた品性」を身に着けて生きてゆきたいと願います。